

やまゆりに「相談窓口」をオープン！！

活動団体の情報は「市民の会」が提供

9月18日、麻生市民交流館「やまゆり」に『市民活動支援相談窓口』がオープンしました。これから地域で何かをしたい、そのために、麻生区にはどんな市民活動の団体、趣味や学習のサークル活動グループがあるのか知りたいという市民や、団体・グループのさまざまな交流やネットワークづくりのために、情報がほしい活動団体を対象に始められた事業です。

あなたの地域活動は やまゆりで見つけよう

麻生区では、数多くの市民活動団体・グループが住みよく、楽しい地域とくらしの実現のためにさまざまな分野で活躍しています。市民の会・市民活動支援部会では、昨年度から1年余りにわたって、旧区民活動支援ルーム登録団体、やまゆり登録団体、麻生市民館登録団体の協力を得て、各団体の情報収集と整理を行ってきました。そして、最終的に情報提供が可能な136団体(10月現在)の資料を整備し、相談窓口をオープンしました。

相談日は？

毎週木曜日の午後2時～5時に、窓口スタッフが相談に応じています。

「活動の場・やまゆり」では、さまざまな登録団体が会議室や印刷室を利用しています。ときには、サロンやフリースペースでちょっとした打ち合わせなどを行っていることもあります。これから地域



参加しようという市民の皆さんにとってはきっと、新しい発見があるのではないのでしょうか。

なお、サロンやフリースペースは交流や憩いの場として誰もが自由に利用できます。一度やまゆりを訪れてみてはいかがでしょうか。

相談窓口専用電話
相談窓口開設日：毎週木曜日午後2時～5
時のみ (電話) 272 - 7601

他にこんな窓口サービスも予定しています

かわさき市民活動センターとの連携による相談窓口

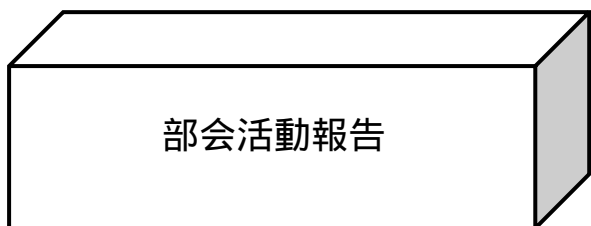
財団法人 かわさき市民活動センターが派遣する専門カウンセラーによるボランティア相談の開設を予定しています。ここでは福祉・環境・国際協力の専門家がさまざまな相談に応じてくれることになっています。(財団法人 かわさき市民活動センター:市民活動支援を目的とし、全市の中間支援組織としての役割・機能を担っている。)

麻生外国人医療情報ヘルプデスク(電話相談)

麻生区では、区内や周辺に居住する外国人との共生をめざす「多文化共生のまちづくり」を事業のひとつとして位置づけています。病気になったときは誰でも心細いものです。その上、ことがよくわからないだけでなく情報もない状況に置かれることは想像以上に辛いことでしょう。

区では、現在、外国人のための電話相談事業の実現に向けて準備を進めており、ボランティアスタッフを募集しています。

問合せ先:麻生区役所 地域振興課
(電話)965-5116 (FAX) 965-5200



まちづくり推進部会

麻生まちづくり学校運営小委員会
第3回講座開催 9月15日(区役所)
ガイダンス

今回は講義室を出て、地域観察をして地域防災マップを作る実習を行いました。先ず第1回にも講師をお願いした川崎・災害ボランティアネット

ワーク代表 植山利昭氏から中越沖地震のボランティア活動の際に撮影した写真に基づいて倒壊家屋や塀が道路を塞いで救難活動の妨げになっているようすなどについて説明がありました。



また町内の観察に当たっては、観察メンバー間で記録、写真撮影、交通安全等の役割を決めて災害時に助けになる場所(応急給水拠点、井戸、コンビニ、ガソリンスタンド等の支援拠点等)、不安全な場所の確認を行うこととプライバシーに配慮した写真撮影の仕方、インタビューのポイント等について指導がありました。

今回取上げた区役所近傍実習場所は、表のとおりで各々の町会長さんには快く観察場所となることを承諾していただき感謝申し上げます。

観察場所	避難場所	町会名
金程1丁目	金程小学校	金程富士見会
上麻生3丁目 4丁目	麻生中学校	マイシティ新百合町内会
万福寺2丁目	百合丘小学校	新万福寺町内会

観察まち歩き

事前確認、観察巡回、地図作り、完成、発表、講評を半日に詰め込んだスケジュールと、夏を思わせるほどの当日の陽射しとで参加者の方々は疲れたようでしたが、日頃知っている場所も仲間と目的を持って巡回すると新しい発見があったりして、たいへん楽しかったようでした。特に写真のように、講義段階から机を並べ替えて6個の島をつくり6班に分れて座ってもらったのは、チームワーク作りに効果がありました。地元を持帰って使えるテクニックです。

新百合周辺も土地造成から早や30年を経ている場所が多く、擁壁や石積みも次第に傷んで

きています。木造家屋の耐震補強助成と同じように、地盤補強にも標準的な工法の開発と公的助成とが必要な時期が来ていると感じました。



発表と講評

各班の発表後、最後に植山講師から皆で地域を廻ってみると気付かなかった発見が多々あったり、考える点が見つかったりすることで防災マップに表すことによって情報を共有できること、それによって地域の防災力が増すこと、地域の変化が激しいので3年毎ぐらいに更新したほうがよいこと、インターネット上に地域防災マップを作ることにより広く情報の共有ができ、しかも更新が簡単なので是非そこまで進めたほうがよいことなどの講評がありました。

地域まちづくり支援小委員会

防災は、各個人の意識をいかに高めるかにかかっています。これまでのように、防災関連の資料を町会で配っただけでは、なかなか達成できません。そのために、町会・自治会の実態に即した課題を抽出し、市民の会が支援するためのプログラムを作成、提案します。実際いくつか打診のあった町内会に出向き、その町会で関心のあつたテーマで説明会を実施しています。そこから新たに町会の課題に即したプログラムを検討します。

<導入として気軽に取り組める動機付けの方法>

「クロスロードゲーム」

ゲーム形式で防災に関連した様々な場面を想定し、自分だったらどうするか選択する。

「防災イメージトレーニング」用紙

小委員会で検討したチェックリスト。実際に被害に遭遇したと仮定して、時間帯や季節によって、家庭や職場でどう行動するか、平常時に考えてもらうことがねらい。

地域通貨小委員会

麻生まちづくり市民の会では、専門講師と実践体験等をお持ちのパネラーをお招きして、麻生の地域通貨を検討します。一緒に考えてみませんか。

フォーラムのご案内 気がるに参加できる地域通貨

専門講師と実践体験等をお持ちのパネラーをお招きして、麻生の地域通貨を検討します。

日時：11月23日（金・祝日）
13:30～16:30

場所：麻生区役所 第1会議室

申込み：11月15日から電話・FAX（住所、氏名、電話番号記入の上）
で受付（先着70名）

申込み先：麻生区役所 地域振興課
TEL965-5116 FAX965-5200

市民活動支援部会

市民活動支援相談窓口小委員会

昨年より、地道な作業を進めてきましたが、いよいよ麻生区のボランティア活動団体（293団体）の基礎資料が整い、これをもとに、9月18日（火）から以降毎週木曜日午後、活動団体を紹介する「相談窓口」をはじめることとなりました。これについては1～2面に特集しました。ここに辿り着くまでには種々困難なハードルもありましたが、最終的にはアンケートにより相談窓口での公開可否を確認し、ここに至りました。また相談に来られた方に迅速に対応できるよう分類も終わりました。麻生区でボランティア活動をしたいとお考えの方は、どうぞ相談にお越しく下さい。

落書き消しに関心集まる 区民まつりでデモンストレーション

落書き消し小委員会 今年も出店しました。落書き消し小委員会は昨年同様、スチールの板にマジックペンとスプレー缶を用意して、実際に落書きを書いてもらいました。「自分で書いた落書きは、自分で消してください」との声かけに、恐る恐る溶剤をかける子どもたち。でも、きれいになった板を見て歓声をあげていました。「今日だけよ」とママから注意されても、夢中で書いたり、消したり。街に溢れる落書きを放置しておく、犯罪の増加につながるのです、との説明に、大きくうなずく参加者も。途切れる事のない来店者に、疲れも忘れてアピールに努めました。『落書き消し隊』の活動を通して『住みよいまちづくり』のお手伝いに役立っていると、確かな手応えを感じた一日でした。(まちづくり推進部会落書き消し小委員会)



講座「地域デビューへの招待状」

第3回『地域デビューしてみよう』を開催

各地で秋の行事がひしめく10月20日(土)、講座「地域デビューへの招待状」第3回『地域デビューしてみよう』が麻生市民交流館やまゆりで開催され、60名を超える来館者でにぎわいました。

参加団体は27。すっかりおなじみになったパネルやチラシ・パンフレット・作品などがサロンや2階の2つの会議室、フリースペースなど全館を利用して展示されました。今回はアトラクションが加わり、参加団体によるスクエアダンスとバリダンスが披露されました。通りすがりの赤ちゃん連れの若いご夫婦、外国人の若い女性、車椅子の方、そして買い物途中立ち寄った方などがやまゆりを訪れ、サロンはいっぱいに。階段を座席代わりにする人も何人がいて、楽しい雰囲気でも盛り上がりました。

第1部のパネル討論には関係者を除き、33名が参加。第1回と第2回参加者の内、団体との幸せな出会いに恵まれた2名の方とすでに各分野で活躍中の先輩2名をパネリストとしてお招きし、地



域デビュー前後の体験談を話していただきました。新人は、新しい発見や学びを生き生きと率直に語り、先輩はそれぞれの体験談や、また運営にも関わっている立場としての意見も披露され、それぞれ肩の力を抜いた語らいに会場の笑いや共感を誘っていました。

第2部のタイトルは「さあ、ツアーにでかけましょう！」講座運営の部会員がツアーコンダクターとして参加者を案内。趣向を凝らした展示物や作品を見ながら、参加団体の説明や、ツアコンの説明に真剣に聴き入っていました。参加団体同士、参加者と団体との交流、懇談が会場のあちこちで見られ、また、多くの方から講座の一層の充実を期待する声をあちこちでいただきました。(市民活動支援部会・講座企画運営小委員会)

アートセンター10月末オープン

かねてより工事を進めてきた新百合ヶ丘駅北側の開発地にアートセンターがこのほど完成(写真)、10月末ビッグに誕生。



すでに麻生区には芸術関連施設が多数集合し、これらと連携し芸術を創り育て楽しむ本格稼働が進むことでしょう。

今後の予定 (どなたでも傍聴できます)

まちづくり市民の会運営委員会：12月10日(月)18時30分から

市民活動支援部会：12月5日(水)18時00分から

まちづくり推進部会：12月3日(月)18時30分から

編集後記

毎朝、新聞に目を通すと余りにも暗いニュースが多くて辛くなる。「君が憂いに我は泣き、我が喜びに君は舞う」と詠んだ詩人がいたが、今やこんな光景は皆無になってしまったのだろうか。誰かのために、そして自分のためにと始めたボランティア活動が、地域の潤滑油となって、暗いニュースを少しでも払拭できたらこの上無い喜びだ。こんな夢を追いながら、市民の会の活動に参加して実に多くの人に巡り会えた。共通のテーマを掲げて対話を進めることこそコミュニティの第一歩。価値観の違いや、やり方の違いは有っても「住みよいまちづくり」を目指す心は同じはず。大いに語り、動くには最も良い季節になりました。(ST)

【麻生のまちづくり25号掲載記事の訂正】4面に掲載しました「愛称は“きずな”」本文の中で、昭和音大敷地内が「しんゆりアートパークス」と名付けられたとの記載がありますが、正しくは、それに隣接する市有地の部分が「しんゆりアートパークス」です。お詫びして訂正いたします